



デンカ株式会社

2027 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会

2026 年 8 月 7 日

イベント概要

[イベント名] 2027 年 3 月期 第 1 四半期決算説明会

[決算期] 2026 年度 第 1 四半期

[日程] 2026 年 8 月 7 日

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 取締役専務執行役員 財務戦略担当(CFO) 林田 りみる（以下、林田）

AI向け製品の最新状況：スネクトン・球状シリカ（低誘電正接グレード）
Denka

■ 軟質系スネクトン：デファクトスタンダード化が順調に進捗

■ 球状シリカ（低誘電正接グレード）：需要拡大が継続

※スネクトン：
低誘電有機絶縁樹脂。伝送損失を大幅に低減する
優れた誘電正接と加工性を両立する**唯一無二の材料**

リジッド銅張積層板（リジッドCCL）の構成材料

軟質系樹脂

×

硬質系樹脂

×

フィラー

×

ガラスクロス

軟質系スネクトン

有機系

【5月】
専用プラントが竣工

【8月】
新プラントからのサンプル出荷を
予定通り実施、認証手続きが進む
最新グレード(M9 相当)において
デファクト化が順調に進捗
次世代グレード(M10相当)の
評価結果も良好

硬質系スネクトン(開発品)

有機系

【5月】
開発品を各社にて評価
硬質系の設備増強を最終検討中

【8月】
開発品の各社での評価結果・
ユーザー側の課題を踏まえた
スネクトンの優位性が
最も活かせる高付加価値用途
での展開を検討中
引き続き、設備増強を最終検討中

球状シリカ(低誘電正接グレード)

無機系

【5月】
低誘電ニーズの
拡大により、販売量増加中

【8月】
低誘電ニーズの
拡大継続により、
販売量は引き続き増加傾向

低誘電樹脂フィラー(開発品)

有機系

【New】
新たに低誘電樹脂フィラーを
市場投入（詳細は次ページ）

当社の強みである有機・無機
両面からの素材アプローチを
更に強化

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 2

林田：林田でございます。本日はご多忙のところ、デンカ株式会社 2026 年度第 1 四半期決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また日頃より当社の事業に対しまして格別なるご厚情を賜りまして、重ねて御礼申し上げます。それでは初めに当社の成長ドライバーの鍵を握る AI 関連製品の最新の状況をご説明申し上げます。

次の 2 ページをご覧ください。当社の AI 関連製品であるスネクトン、球状シリカはリジット CCL 向けに使用されております。リジット CCL の絶縁層は主に軟質系樹脂、硬質系樹脂、フィラー、ガラスクロスの四つで構成されています。これらの構成材料は AI をはじめとする高速通信を実現するために、非常に高いレベルの低誘電正接特性が求められています。

その中で当社は、軟質系樹脂としてスネクトン、フィラーとして球状シリカを販売しておりまして、需要が急拡大しております。またスネクトンは硬質系樹脂としての開発品も有しておりますので、当社は四つの構成材料のうち三つの領域でソリューションを実現できております。

加えて今回新たにフィラーのラインナップとしまして、有機系である低誘電樹脂フィラーの開発を行いました。当社の強みである有機系と無機系、両方からの素材アプローチをさらに強化しまして、各方面での取り組みに注力してまいります。軟質系スネクトンは 5 月に竣工しました、新プラ

ントからのサンプル出荷を予定どおりに実施し、ユーザーによる認証手続きが順調に進んでおります。最新グレードである M9 相当の CCL 向けへのデファクト化が順調に進捗しております。また次世代グレードである M10 相当での評価結果も良好です。

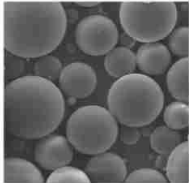
硬質系スネクトンは開発品の各社での評価結果を踏まえまして、スネクトンの優位性が最も発揮できる高付加価値用途での展開を検討中でございます。このような販売戦略のもと、引き続き設備増強を最終検討中です。

無機系のフィラーでございます、低誘電正接シリカは市場ニーズの拡大が継続しておりまして、販売量は引き続き増加傾向です。また先ほどご紹介したとおり、当社は新たに有機系のフィラーである低誘電樹脂フィラーを市場に投入いたしました。低誘電樹脂フィラーにおいては、リジッド CCL 向けのみならず FCCL 向けでも低誘電ニーズに応えてまいります。次のページで新製品である低誘電樹脂フィラーについて詳しくご説明いたします。

AI向け製品の最新状況：低誘電樹脂フィラー
Denka

■ 低誘電樹脂フィラー：高速通信基板向けに開発品を市場投入

新開発



低誘電樹脂フィラー																																							
	主な特長		物性																																				
	- PTFE並みの低誘電特性を持ちながら、PFASフリー - 粒子形状が球状であるため、高充填が可能 - PTFEフィラーと比較し、低CTE※、低比重、高密着性 - 無機フィラーと比較し、低Dk、低比重 ▶ FCCL向け樹脂フィラー代替や リジッドCCLでの無機フィラーとの併用を想定	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">有機</th> <th colspan="2">無機</th> </tr> <tr> <th></th> <th>当社開発品 (樹脂フィラー)</th> <th>PTFEフィラー (※参考)</th> <th>球状 シリカ</th> <th>球状シリカ (低誘電正接グレード)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粒子形状</td> <td>球状</td> <td>非球状</td> <td>球状</td> <td>球状</td> </tr> <tr> <td>比重(g/cm³)</td> <td>1.0~1.2</td> <td>2.2</td> <td>2.2</td> <td>2.2</td> </tr> <tr> <td>CTE(ppm/°C)</td> <td>70</td> <td>100-140</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> </tr> <tr> <td>誘電率(Dk)</td> <td>2.3</td> <td>2.1</td> <td>3.8</td> <td>3.8</td> </tr> <tr> <td>誘電正接(Df)</td> <td>0.0006</td> <td>0.0003</td> <td>(品種による)</td> <td>0.0010以下</td> </tr> </tbody> </table>					有機		無機			当社開発品 (樹脂フィラー)	PTFEフィラー (※参考)	球状 シリカ	球状シリカ (低誘電正接グレード)	粒子形状	球状	非球状	球状	球状	比重(g/cm³)	1.0~1.2	2.2	2.2	2.2	CTE(ppm/°C)	70	100-140	0.5	0.5	誘電率(Dk)	2.3	2.1	3.8	3.8	誘電正接(Df)	0.0006	0.0003	(品種による)
	有機		無機																																				
	当社開発品 (樹脂フィラー)	PTFEフィラー (※参考)	球状 シリカ	球状シリカ (低誘電正接グレード)																																			
粒子形状	球状	非球状	球状	球状																																			
比重(g/cm³)	1.0~1.2	2.2	2.2	2.2																																			
CTE(ppm/°C)	70	100-140	0.5	0.5																																			
誘電率(Dk)	2.3	2.1	3.8	3.8																																			
誘電正接(Df)	0.0006	0.0003	(品種による)	0.0010以下																																			

※CTE：熱膨張係数

想定 (1) フレキシブル銅張積層板 (FCCL) (フッ素混成ポリイミド) 向け

ベースポリマー (変性ポリイミド)

×

低誘電樹脂フィラー (PTFE)

▶

低誘電樹脂フィラーへ置換

想定 (2) リジッド銅張積層板 (リジッドCCL) 向け

軟質系樹脂

×

硬質系樹脂

×

低誘電無機フィラー

+

低誘電樹脂フィラーを併用

×

ガラスクロス

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved.

3 ページをご覧ください。低誘電樹脂フィラーの主な特徴は四つございます。一つが PTFE 並みの低誘電特性を持ちながら PFAS フリーである点。二つ目が粒子形状が球状でございますので、高充填が可能な点。3 点目が PTFE フィラーと比べ CTE、いわゆる熱膨張係数と比重が低く、密着性が高い点。4 点目が無機フィラーと比べますと低誘電率、低比重である点などがございます。

これらの特徴を活かしまして低誘電樹脂フィラーは FCCL とリジッド CCL 両方の使用を想定しております。FCCL の中で変性ポリイミドをベースとした FCCL では現状、低誘電特性を付与するために PTFE フィラーが主に使用されておりますが、そのフィラーの代替を狙っております。

またリジッド CCL 向けにも低誘電樹脂フィラーと併用することで、さらに誘電率を下げる用途を想定しております。無機と有機、両方の技術を持つ当社の強みを最大限活用し、他にはない独自のソリューションで存在感を発揮してまいります。

DPE（米国クロロブレンゴム製造子会社）における暫定停止 業績影響と最新状況					Denka
■ 営業利益：抜本的対策効果は 1Q+30億円、通期では計画通り+62億円の見通し（2025年度比） ■ 特別損益：1Qは△47億円。通期で一定の特別損失を見込むが、特別利益の計上などで補填することを計画					
最新状況	設備	DPEでは、製造設備の安全な状態での休止を目的とした、原材料や中間品などの物質の抜き取りが概ね完了し、設備のクリーニングや後処置等を実施中			
	従業員	人員の適正化を進めている (従業員数 2025年12月末時点：約140名→2026年7月末時点：約80名→更なる人員適正化へ)			
	ステークホルダー	DPEは、今後の費用負担を最小化すべく、各ステークホルダーとの協議を継続中			
単位：億円		1Q	2Q	下期	通期
営業利益	抜本的対策効果 (2025年度比)	+30	+32	0	+62
特別損益	DPE関連損失	△47 (原材料等の抜き取り作業に伴う労務費などの費用)	2Q以降も一定の費用が特別損失として発生		
	政策保有株式売却益	0		検討	補填
	繰延税金資産の計上	0			

それでは次に、クロロブレンゴムの米国製造子会社である DPE の暫定停止後の業績影響と最新状況につきましてご説明いたします。4 ページをご覧ください。

DPE の製造設備につきましては、安全な状態で休止するための原材料や中間品などの物質の抜き取りがおおむね完了いたしました。現在は設備のクリーニングや後処理を実施中でございます。従業員数は 26 年 7 月末時点で約 80 名にまで減少いたしました。この作業の進捗に合わせて、今後さらなる人員適正化を進めてまいります。並行してステークホルダーとの協議に最大限注力しております。早期解決および今後の費用負担の最小化を目指してまいります。

次に業績影響について説明いたします。営業利益における抜本的対策の効果は、26 年度のファーストクォーターは 25 年度比プラス 30 億円となりました。通期の効果は、計画並みの 25 年度比プラス 62 億円を見込んでおります。一方で特別損益における影響は原材料等の抜き取り作業に伴う労務費などが発生し、ファーストクォーターでマイナス 47 億円を計上いたしました。セカンドク

オーター以降も一定の費用が特別損失として発生することを見込んでおります。これに対しましては従来から話しておりますとおり今年度も特別利益などで補填し、最終利益をコントロールしていきたいと考えております。

説明会のポイント		Denka
2026年度1Q 決算概要 (P6-P14)	■ 営業利益： 110億円（前年比 +87億円） AI関連と電力インフラ向け需要拡大、DPE操業停止効果(+30)に加え、在庫影響[※](+60、中東情勢による一時的な影響等)により大幅増益 ※在庫影響+60（原燃料価格高騰前の期首在庫販売による効果など）：原燃料価格下落時はマイナスに転化する可能性（ポリマーソリューション+48、エラストマー・インフラソリューション+5 ほか） ■ 純利益： 28億円（前年比 △22億円） 特別損失：事業整理損等(DPE関連等) 2025年1Q△22(設備内の原材料、中間品の評価減のみ) 2026年1Q△48(原材料等の抜取作業に伴う労務費等の費用) 特別利益：2025年1Q+82（大船工場用地売却益）→ 2026年1Q なし	
2026年度 通期予想 (P15-P18)	■ 営業利益：上期 170億円(期初予想比+50億円) ■ 純利益：上期 0億円(期初予想比± 0億円) 【上期】 電子・先端プロダクツの堅調な進捗、ライフイノベーションの販売減、在庫影響のプラス効果残存を織り込み 【通期】 中東情勢や原燃料価格の先行きが不透明であるため、在庫影響がマイナスに転化する可能性などがあり、今回は見直しは行わず、第2四半期決算時に見直し予定 (参考) 期初予想 営業利益：300億円 純利益 160億円	
株主還元 (P19)	■ 配当予想：100円/株から変更なし（総還元性向54%） ■ 今後の配当方針：総還元性向50%（経営計画8年間累計）を目安にしたいうえで、1株当たり配当額の維持、増加を目指す	Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 5

それでは次の5ページをご覧ください。本日の説明会のポイントです。26年度第1四半期決算はAI関連や電力インフラ向けの需要が拡大したほか、DPE操業停止効果、30億円。中東情勢による一時的な影響などによる在庫影響、60億円が寄与しまして全体の営業利益は前年比プラス87億円と大幅増益となりました。純利益は28億円となり、大船工場用地売却益を計上した前年と比べますとマイナス22億円となりました。

26年度上期の業績予想は電子・先端プロダクツの堅調な進捗、ライフイノベーションの販売減、在庫影響のプラス効果残存を織り込みまして上方修正いたしました。一方、通期の業績予想ですが、中東情勢や原材料価格の動向が不透明でございますので、在庫影響がマイナスに転化する可能性があると考えております。そのため今回は見直しを行わず、第2四半期の決算のときに見直しを行う予定でございます。

配当予想につきましては期初予想からの変更はございません。経営計画 Mission 2030 における8年間累計の総還元性向50%をベースとした上で、1株当たりの配当額の維持・増加を目指す方針に変わりはございません。

■ 営業利益：AI関連と電力インフラ向け需要拡大、DPE操業停止効果(+30)に加え、在庫影響(+60、中東情勢による一時的な影響など)により大幅増益

単位：億円	2025年度 1Q実績	2026年度 1Q実績	(前年比)
売上高	941	970	+29
営業利益	23	110	+87
営業利益率	2.4%	11.3%	+8.9%
経常利益	17	95	+78
特別利益：大船工場用地売却益	82	0	
特別損失：事業整理損失等(DPE関連等)	△22	△48	
純利益	50	28	△22
為替レート (円/\$)	145.3	159.9	
国産ナフサ (円/Kリットル)	65,100	113,200	

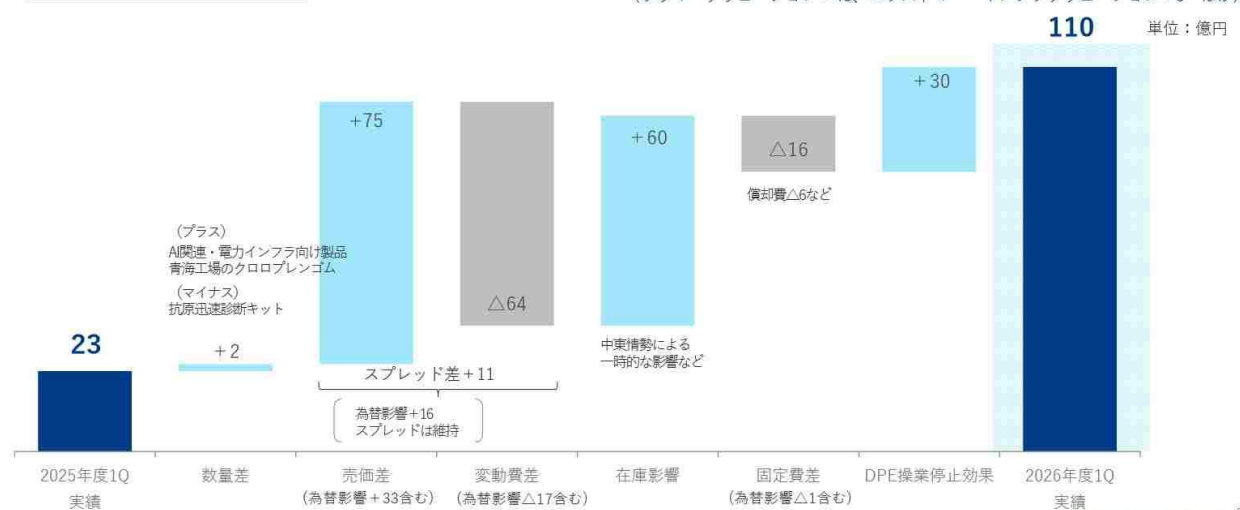
Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 7

それでは26年度第1四半期の決算の説明に入りますので7ページをご覧ください。2026年度第1四半期決算は売上高が970億円、営業利益110億円、経常利益95億円、純利益が28億円となりました。AI関連や電力インフラ向け需要拡大、DPE操業停止効果、在庫影響などによりまして営業利益段階では大幅な増益となりました。純利益は大船工場用地売却益を計上した前年と比べ減益となりました。

■ AI関連と電力インフラ向け需要拡大、DPE操業停止効果(+30)に加え、在庫影響※(+60、中東情勢による一時的な影響など)により大幅増益

営業利益 差異分析(前年比)

※在庫影響+60(原燃料価格高騰前の期首在庫販売による効果など)：原燃料価格下落時はマイナスに転化する可能性
(ポリマーンリユーション+48、エラストマー・インフレーション+5 ほか)



Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 8

次の 8 ページで営業利益の増減要因をご説明申し上げます。数量差は抗原迅速診断キットの販売が減少した一方、AI 関連や電力インフラ向け製品と青海工場のクロロプレンゴム販売増加などによりましてプラス 2 億円となりました。

売価差と変動資産をネットしたスプレッド差はプラス 11 億円と原材料価格上昇に見合う売上の実施によりましてスプレッドを維持しました。

加えて原料価格高騰前の期首在庫の販売による在庫影響がプラス 60 億円となりました。しかしながらここでの在庫を受けない影響によるプラス効果は、原燃料価格下落時には逆にマイナスに転化してしまう可能性があるものでございます。そのためわれわれとしまして、この効果は一時的という認識をしております。

また固定資産は償却費の増加などによりましてマイナス 16 億円、DPE 操業停止効果はプラス 30 億円となりました。以上により営業利益は 110 億円と大幅増益となりました。

2026年度1Q 決算概要 ③ セグメント別内訳（前年比）				Denka			
■ 電子・先端プロダクツ、エラストマー・インフラソリューション、ポリマーソリューションが増益							
売上高	2025年度1Q	2026年度1Q	増減	DPE			単位：億円
	実績	実績		数量差	売価差	操業停止効果	
電子・先端プロダクツ	236	264	+28	+8	+19		
ライフイノベーション	66	70	+4	+5	△1		
エラストマー・インフラソリューション	258	237	△21	△2	+15	△34	
ポリマーソリューション	338	361	+23	△18	+41		
その他/消去差	43	39	△4	△4	-		
合計	941	970	+29	△11	+75	△34	
営業利益	2025年度1Q	2026年度1Q	増減	DPE			
	実績	実績		数量差	売価差	コスト差等	操業停止効果
電子・先端プロダクツ	25	37	+12	+6	+19	△13	
ライフイノベーション	2	2	△0	△6	△1	+7	
エラストマー・インフラソリューション	△14	27	+41	+10	+15	△13	+30
ポリマーソリューション	4	36	+32	△9	+41	+0	
その他/消去差	6	7	+1	+1	-	-	
合計	23	110	+87	+2	+75	△20	+30

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved.

9

次の 9 ページをご覧ください。こちらはセグメント別の売上高、営業利益の差異分析です。電子・先端プロダクツは AI 関連、電力インフラ向け製品の販売好調が継続いたしました。エラストマー・インフラソリューションは DPE の操業停止効果、ポリマーソリューションは在庫受払影響によりましてそれぞれ増益となり、全体で大幅増益となりました。

■ ポリマーソリューションの大幅増益により全体でも増益

単位：億円

売上高	2024年度				2025年度				2026年度	4Q比 (増減)
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
電子・先端プロダクツ	219	232	225	247	236	265	258	285	264	△21
ライフイノベーション	78	146	127	82	66	148	135	56	70	+14
エラストマー・インフラソリューション	292	272	280	272	258	241	229	248	237	△11
ポリマーソリューション	326	349	349	330	338	316	278	309	361	+52
その他/消去差	38	40	44	56	43	56	40	37	39	+2
合計	952	1,038	1,025	987	941	1,026	941	935	970	+35

営業利益	2024年度				2025年度				2026年度	4Q比 (増減)
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
電子・先端プロダクツ	23	27	20	22	25	38	34	41	37	△5
ライフイノベーション	17	40	19	20	2	36	28	△4	2	+6
エラストマー・インフラソリューション	△2	△29	△26	△23	△14	△20	11	24	27	+4
ポリマーソリューション	3	4	4	1	4	11	5	16	36	+20
その他/消去差	7	5	7	5	6	9	6	3	7	+5
合計	47	47	24	26	23	74	85	80	110	+30

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved 10

次に 10 ページをご覧ください。各セグメントの四半期ごとの推移と前四半期との比較をお示しております。ファーストクォーターはポリマーソリューションが大幅増益となったことから全体でも増益となりました。続いて次のスライドからセグメント別差異分析の詳細について説明いたします。

■ AI関連・電力インフラ向け需要拡大により増益



Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved

11

11 ページをご覧ください。電子・先端プロダクツは AI 関連や電力インフラ向けの需要拡大により増益となりました。用途別の販売動向としましては、樹脂基板用途と光フェルルール用途での球状シリカ、放熱封止材用途での球状アルミナの需要拡大が継続しました。スネクトンは下期より AI 向け販売が本格化する見込みです。アセチレンブラックにつきましては、電力インフラ用途の高圧ケーブル向けは需要が堅調に推移いたしました。

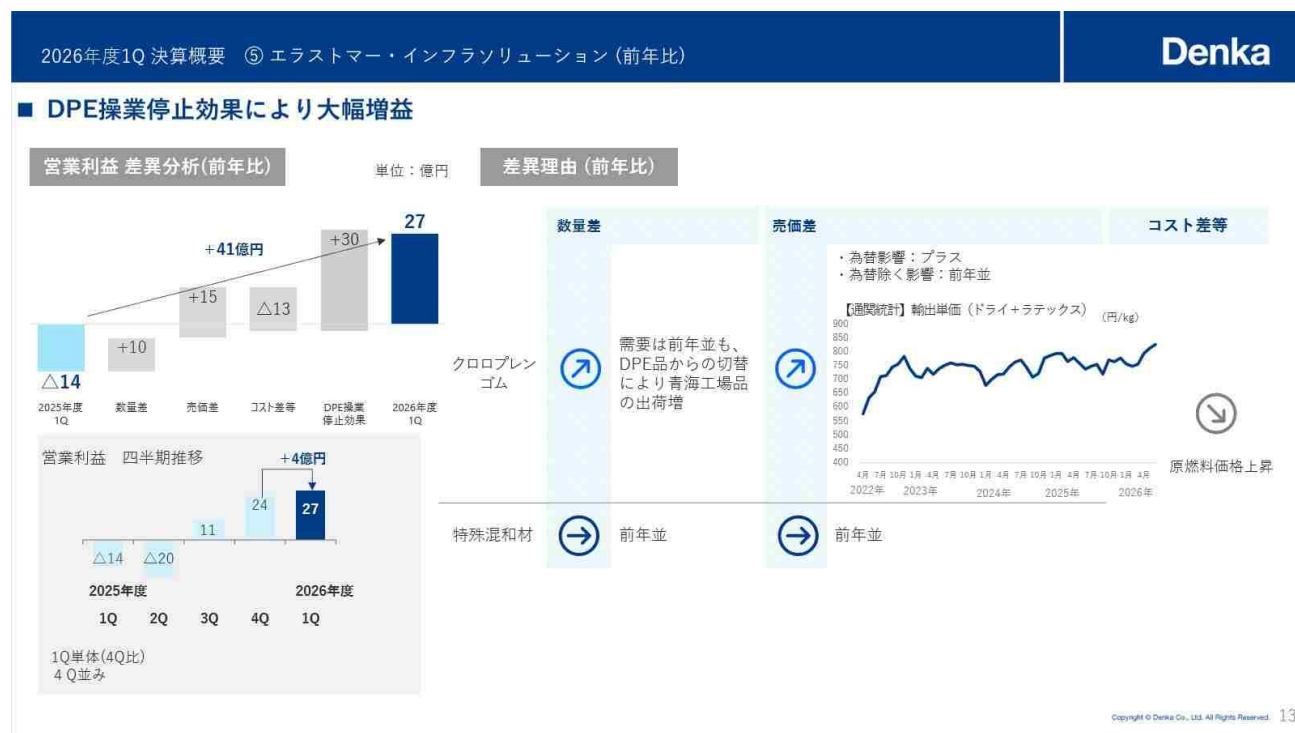
中東情勢によるマイナス影響はファーストクォーター段階では軽微でございました。なお中東情勢によるマイナス影響分に対する製品の値上げにつきましては、変動費悪化分だけではなく固定費悪化分まで含めた交渉を進めております。

アセチレンブラックのデータセンター用途、ESS 向け販売は急速に伸びました。一方で xEV 向けでは欧米向けの需要低調が続いておりまして、球状アルミナ、アセチレンブラック、窒化珪素粉、セラミックス基板の販売数量は前年並みにとどまりました。セラミックス基板の売価差は計画並みに値上げが進捗し、前年比プラスとなりました。

セグメント全体のコスト差は、原燃料価格の上昇や償却費の増加などによりまして前年から上昇しました。なおスライド左下に、前四半期との比較を記載しております。フォースクォーターは中東情勢影響により一部出荷の前倒しがあったため、これに比べファーストクォーターは若干の減益となりました。



次の 12 ページはライフイノベーションについて説明いたします。ライフイノベーションは抗原検査キットの出荷が大幅に減少しましたが、研究費などのコストが減少し、前年並みとなりました。製品別の状況としましては、インフルエンザワクチンが 9 月の出荷に向け製造中です。抗原検査キットは感染症が流行しておらず、検査需要の減少に伴い出荷が大幅に減少しております。また流通在庫の消化も想定よりも進んでおらず、セカンドクォーター以降の販売も厳しい状況でございます。臨床試薬はカイノス社連結化による増分を含めまして、前年を上回りました。フォースクォーターとの比較ではカイノス社連結による増分などによりまして増益となりました。



次の 13 ページはエラストマー・インフラソリューションについて説明いたします。エラストマー・インフラインフラソリューションはクロロプレンゴムの需要は前年並みとなりましたが、DPE からの順調な切り替えによりまして青海工場品の出荷が増加しました。加えて DPE 操業停止効果はプラス 30 億円となりまして、セグメント全体で大幅増益となりました。なおフォースクォーターとの比較は前四半期並みとなっております。

■ 在庫影響+48(中東情勢による一時的な影響など)のプラス効果により大幅増益

営業利益 差異分析(前年比)

差異理由(前年比)



Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 14

次の14ページはポリマーソリューションについて説明します。ポリマーソリューションは在庫影響がプラス48億円と大きく、大幅増益となりました。製品別の状況としましては、MS樹脂は中国品との競合により販売数量が減少しました。またAS・ABS・透明樹脂などスチレン系樹脂も中東情勢の影響を受けまして前年を若干下回りました。フォースクォーターとの比較でも在庫影響により大幅な増益となっております。

- 【上期】電子・先端プロダクツの堅調な進捗、ライフイノベーションの販売減、在庫影響のプラス効果残存を織り込み
- 【通期】中東情勢や原燃料価格の先行きが不透明であるため、在庫影響がマイナスに転化する可能性などがあり、今回は見直しは行わず、第2四半期決算時に見直し予定

単位：億円	2025年度上期 実績	2026年度上期 期初予想	2026年度上期 今回予想	(期初予想比)	(参考)通期 期初予想
売上高	1,967	2,100	2,050	△50	4,500
営業利益	97	120	170	+50	300
営業利益率	5.0%	5.7%	8.3%	+2.6%	6.7%
経常利益	68	70	110	+40	200
純利益	39	0	0	±0	160
為替レート(円/\$)	146.2	158.0	160.4		
国産ナフサ(円/Kリットル)	65,000	121,100	99,300		

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 16

それでは 16 ページ以降で修正しました上期の業績予想をご説明申し上げます。26 年度上期の業績予想は、電子・先端プロダクツの堅調な進捗、ライフイノベーションの販売減、在庫影響のプラス効果残存を織り込みまして、記載のとおり上方修正しております。一方、通期の業績予想は中東情勢や原燃料価格の動向が不透明であるため、在庫影響がマイナスに転化する可能性がございます。そのため今回は見直しを行わず、第 2 四半期の決算発表時に見直しを行う予定としております。

2026年度業績予想 ② セグメント別内訳						Denka
■ 【上期】 電子・先端プロダクツの堅調な進捗、ライフイノベーションの販売減、在庫影響のプラス効果残存を織り込み ■ 【通期】 中東情勢や原燃料価格の先行きが不透明であるため、在庫影響がマイナスに転化する可能性などがあり、今回は見直しを行わず、第2四半期決算時に見直し予定						
営業利益 (単位：億円)	1Q 実績	2Q 予想 (差引)	上期 今回予想	(期初 予想比)	通期の 先行き	業績予想修正の主な要因
電子・先端プロダクツ	37	23	60	+20	⊙ (想定を上回る)	AI関連製品(スネクトン、球状シリカ、球状アルミナなど)の需要拡大が継続。 (スネクトンは下期に販売が本格化) 中東情勢によるアセチレンブラックの減産影響は、2Q以降で本格化する見通し。 一方、他製品への中東情勢影響は想定より軽微
ライフイノベーション	2	8	10	△ 20	△ (想定を下回る)	抗原迅速診断キットは、感染症流行に伴う検査需要が期初の想定を大幅に下回る (市中在庫の消化ペースが想定以上に鈍化しているため、下期も想定を下回る可能性あり)
エラストマー・インフラソリューション	27	23	50	+10	○ (想定並)	クロロブレンゴムの需要は想定並み 在庫影響のプラス効果残存を織り込み
ポリマーソリューション	36	4	40	+40	○ (想定並)	在庫影響のプラス効果残存を織り込み 中東情勢によるマイナス影響は、想定より軽微
その他/消去差	7	3	10	±0		
合計	110	60	170	+50		

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 17

次の 17 ページでは、セグメント別に修正した上期の業績予想と定性的で恐縮ではございますが、通期の先行きをご説明申し上げます。電子・先端プロダクツは AI 向け需要の拡大が継続しておりまして、期初の想定を上回っております。

なおスネクトンは下期に販売が本格化する見通しです。中東情勢によるアセチレンブラックの減産影響はセカンドクォーター以降で本格化する見通しです。一方、他製品の中東情勢影響は想定より軽微となる見込みです。以上により、上期予想を 20 億円上方修正した 60 億円とし、通期も想定を上回る見通しでございます。

ライフイノベーションでは検査需要が想定を大幅に下回っていることから、上期については 20 億円下方修正の 10 億円としました。なお市中在庫の消化ペースが想定以上に鈍化していますので、下期も想定を下回る可能性があると考えております。

エラストマー・インフラソリューションでは、クロロプレンゴムの需要は想定の見通しですが、在庫影響のプラス効果残存を織り込んだことから上期は 10 億円上方修正の 50 億円としました。通期でもおおむね計画どおりの進捗となる見通しでございます。

ポリマーソリューションは在庫影響のプラス効果残存を織り込んだことに加えまして、中東情勢によるマイナス影響が想定よりも軽微であることから 40 億円の上方修正を行いました。通期では原油燃料価格の動向によって在庫影響のプラス効果が残存するか不透明でございますが、それを除きますと概ね堅調でございます。

2026年度 業績予想 ⑥ セグメント別投資・償却費・研究費

Denka

■ アセチレンブラックのタイでの新規製造拠点投資が進捗し、設備投資額は昨年度をピークに減少

単位：億円

	設備投資・投資額※1				減価償却費				研究開発費			
	2025年度		2026年度		2025年度		2026年度		2025年度		2026年度	
	1Q実績	通期実績	1Q実績	通期予想 (変更なし)	1Q実績	通期実績	1Q実績	通期予想 (変更なし)	1Q実績	通期実績	1Q実績	通期予想 (変更なし)
電子・先端プロダクツ	44	379	65	250	27	112	29	120	15	58	17	70
ライフソリューション	8	61	25	40	10	42	11	42	13	45	9	40
エラストマー・インフラソリューション	18	111	29	100	21	83※2	21	90	6	25	7	30
ポリマーソリューション	11	52	23	70	13	52	16	64	5	19	6	20
その他/消去差	0	4	3	10	1	3	1	4	-	-	-	-
合計	82	608	144	470	72	292	78	320	39	148	39	160

※1 「その他」にCVC等を含む

※2 DPEの償却減分を含む

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 18

次の 18 ページではセグメント別の投資、償却費、研究費についてお示ししております。2026 年度の投資は 470 億円の見込みです。昨年度をピークに漸減していく見通しに変更はございません。

■ キャッシュフローの改善を見込み、前年同額の100円/株を維持（期初予想から据え置き）

		2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 予想
当期純利益	(億円)	227	228	260	128	119	△123	157	160
1株当たり配当	(円/株)	125.0	125.0	145.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
配当額	(億円)	108	108	125	86	86	86	86	86
配当性向		48%	47%	48%	68%	72%	-	55%	54%
自己株取得	(億円)	-	-	-	-	-	-	-	-
総還元額	(億円)	108	108	125	86	86	86	86	86
総還元性向		48%	47%	48%	68%	72%	-	55%	54%
減価償却額	(億円)	225	229	239	270	269	279	292	320
設備投資・投融資	(億円)	369	423	356	394	440	700	608	470
有利子負債残高	(億円)	1,343	1,382	1,370	1,697	1,744	2,177	2,217	2,450
ネットDEレシオ		0.42倍	0.42倍	0.40倍	0.50倍	0.45倍	0.61倍	0.60倍	0.69倍
ROIC		6.6%	6.8%	7.3%	6.7%	2.5%	2.5%	4.2%	4.5%
ROE		9.1%	8.8%	9.4%	4.4%	4.0%	△4.1%	5.2%	5.1%
DOE		4.3%	4.2%	4.5%	2.9%	2.9%	2.9%	2.8%	2.7%

※CVC等を含む Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 19

次の19ページでは株主還元・ROEについてご説明いたします。2026年度の還元方針につきましては、経営計画8年間累計で総還元性向50%を目安とした上で1株当たり配当額の維持・増加を目指す従来からの方針に変更はございません。当期の配当予想につきましても、前年同額の1株当たり100円配当と期初予想から変更ございません。私からの説明以上でございます。